

# 大 学 史 研 究 通 信

第 61 号、2010 年 2 月 5 日 (金)

大学史研究会

第 61 号の内容： 会員ニュース・会員新刊ニュース・第 32 回大学史研究セミナー報告・2009 年度総会報告・2009 年度会計報告・2009 年度までの年会費未納の方へ納入のお願い・第 33 回大学史研究セミナー開催について・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

## 会員ニュース

### 異動のあった会員

井上 美香子 会員 (所属変更)  
新所属：九州大学大学文書館

## 会員新刊ニュース

潮木守一『職業としての大学教授』中公叢書 (2009/10/11)  
潮木守一『転換期を読み解く』東信堂 (2009/12/30)  
羽田貴史他編『高等教育質保証の国際比較』東信堂 (2009/12/30)

## 第32回大学史研究会セミナー報告

第 32 回の大学史研究セミナーは、2009 年 12 月 5・6 日の両日、東北大学片平キャンパスにある東北大学史料館において開催された。今回のセミナーは、全体の運営とシンポジウムの企画について羽田貴史会員、会場の提供と設営、史料館見学について永田英明会員のお二人に全面的にお世話いただいた。2 日間で 31 名の参加者があった (会員 19 名、非会員 12 名)。

一日目のシンポジウムは羽田会員の企画と田中正弘会員 (島根大学) の司会により、「学問の自由と大学自治—ドイツ・アメリカ・日本—」が行われた。登壇者は、ドイツについて京都大学の金子勉氏、アメリカについて東京女子大学の黒川修司氏、そして日本については羽田会員から報告が行われた。金子氏は、「19 世紀のドイツにおける大学の自由と自治」と題し、ベルリン大学を創設したフンボルトと、『独逸国大学制度論』が日本でも翻訳・紹介されたロエスレルに着目して、ドイツにおいて当時、大学の自治やそこにおける学問・研究の自由が、大学制度の構築の過程でどのような理念として論じられていたのかを一次史料に基づいて丹念に解説された。黒川氏は、「米国における学問の自由を巡る動向」と題して、主として第二次世界大戦期以降における赤狩りの実態について詳細に解説しつつ、州政府や理事会、あるいは大学自身によって、いかに教授の身分保障がいかに脅かされていたかについて明らかにされた。この実態は、氏の著書『赤狩り時代の米国大学』(中公新書、1994 年)においてより詳しく論じられてい

る。また、最近の米国における学問の自由の動向として、9・11以降に生じつつある新たな危機について紹介され、また学問の自由を擁護する上で重要な役割を果たしてきたAAUP（米国大学教授連合）の会員が大幅に減少しており、学問の自由に対する脅威が自覚されていない現状についても言及された。羽田会員は、「日本における学問の自由と大学の自治」と題し、戦前期における学問の自由と大学自治に関して当時の知識人らによってどのような言論が展開されたのかを論じた後、戦後大学改革の中で大学管理制度を巡って、CI&Eと日本側との議論を中心に当時どのような議論のプロセスがあったのかを、理事会方式による大学管理を巡る議論、地方分権、レッドページと大学管理の関係などについて詳細にわたって論じられた。

いずれの報告も内容が濃く、また興味深い論点を含んでおり、報告後の討論も活発に行われ、所定の時間の中では議論し尽くせない点も多く残った。3つの報告は、議論の内容にしても報告のスタイルにしても、また「学問の自由」と「大学の自治」という2つのテーマのどちらかに軸足を置くのかについても三者三様であった。だが、それぞれの独自の視点とスタイルに依拠して展開された今回のシンポジウムは、このテーマの広がり魅力を知る上できわめて有意義なものであり、様々な想像力をかき立てられる内容であった。「学問の自由」と「大学の自治」は、それぞれを独立に論じることも可能である。しかし、それぞれの問題を突き詰めていけば両者の接点に行き当たることを3つの報告は教えてくれていたと思う。終了後の懇親会、さらにはセミナー終了後も、今回のテーマは今後、より深く考察する余地を含んだものであるとの意見が寄せられた。近い将来のセミナーにおいてぜひ検討してみたい。

前夜の懇親会を経た2日目には、井上美香子会員（九州大学）の司会により2つの自由研究発表が行われた。西九州大学の香川せつ子会員は、「イギリスにおける女性のアカデミック・プロフェッション：1880～1930」と題して発表された。現在、女性研究者の増加とそのための支援が国際的な課題となっており、とりわけ日本では女性研究者の割合が先進国の中で最低レベルにあるという問題意識を基底に、イギリスにおいて女性教員の比率の上昇が見られた19世紀後半から20世紀前半の時期を対象に、女性カレッジや共学大学において、どのように女性が採用され、またキャリアを形成していったのかについて詳細に論じられた。

続いて、広島女学院大学の松浦正博会員は、「中世パリ大学神学部と托鉢修道会をめぐって」と題して発表された。中世大学の組織化を語る上で托鉢修道会が重要な役割を果たしたという近年の研究成果をベースに、特にドミニコ会を取り上げて、当時どのような組織構造の下に知的活動が展開され、またパリ大学との間でどのような影響関係を有していたのか、さらに相互の相違点は何かについて論じられた。

自由研究発表終了後、永田会員の案内で、史料館ツアーを行った。20名ほどの参加者があった。史料館の展示室では常設展示として「歴史のなかの東北大学」が公開されており、一次史料や写真をはじめとする各種の展示物や丁寧な解説文を通して東北大学の歴史が分かりやすく理解できるよう配慮されていた。また、大学文書館や史料館勤務以外の会員にとっては、日頃なかなか目にする事のない貴重な史料をご紹介いただき、参加者の関心を惹いていた。参加者全員で記念撮影をするなどして散会となった。

このように、非常に充実したプログラムを編成することが出来たのは、ひとえに羽田会員、永田会員のご尽力のおかげである。また、金子氏と黒川氏はお忙しい中、快くご報告をお引き受けいただき、有意義な内容をご提供いただいた。この場を借りて、改めて深く感謝申し上げたい。

（事務局セミナー担当 福留東土）

## 2009年度総会報告

### 2009年度 大学史研究会 総会 議事録

2009年12月5日(土)

於：東北大学史料館

事務局作成

#### 1. 紀要編集委員会からの報告

事務局紀要担当の岡田局員より以下の報告があった。

『大学史研究』第24号については、現在編集作業中であり、市販化の第1号となることから部数・経費負担・バックナンバーの取扱などについてはこれから東信堂と話を詰めていくこととなった。また、『大学史研究通信』および『大学史研究』に掲載された原稿の研究機関リポジトリへの掲載については事務局・紀要編集委員会・東信堂との3者で検討し、結果を『通信』にて報告することとなった。

#### 2. 2009年度決算報告および2010年度予算案

事務局会計補佐の浅沼局員より2009年度年度決算、および2010年度予算案について説明があった。会員から予算案の「ホームページ管理費」の項目について、アルバイトを使ってはどうかとの意見があり、事務局で検討することとなった。決算・予算とも原案通り了承された。なお、これに加えて年会費納入の協力も求められた。

#### 3. 名簿作成について

事務局名簿担当の浅沼局員より、紙の値上がりにもない、名簿発行経費の予算として6万円を計上した旨が改めて報告された。なお、来年の夏に名簿の編集作業を行い、2011年2月に発行する予定であることが報告された。

#### 4. 事務局員の退任について

福留局員より、吉村局員が2009年度をもって事務局代表を退任したい旨であることの説明があり、2010年度より事務局代表として新たに福留局員が就任することが報告された。福留局員より、今後事務局業務のあり方、若手会員の関わり方について議論し、研究会の活性化を図りたい旨の挨拶があった。

#### 5. 2010年度セミナーについて

2010年度大学史研究セミナーの会場の提供について、会員からの積極的な協力が依頼された。

## 2009年度会計報告

大学史研究会2009年度会計ならびに2010年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

### \* 2009年度の収支報告

## 【 収入 】

2008 年度会計からの繰越金は、3,150,185 円でした。

年会費は、一般会員：5,000 円、大学院在学・日本学術振興会特別研究員会員：3,000 円です。

2009 年度年会費につきましては、87 名の会員より納入いただき、前年度(2008 年)のセミナー終了後に納入して下さった分も加えると、年会費・入会金の納入総額は、593,000 円でした。

ここ数年、総会時点での年会費の納入率は、6 割程度の状況が続いております。昨年度に限っては 65.3%にまで上昇したのですが、今年度は 61.7%でした(3.6 ポイント下降)。

年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

なお、年会費に関連いたしましては、2009 年度分までの会費未納の方を対象として、年会費納入依頼通知と払込票を改めて送付させていただきました。

この納入依頼通知の再送によって、昨年度は 21 名の方から納入いただきました。今年もご理解ご協力いただきたく存じます。詳しくは、後述の「2009 年度分までの年会費未納の方へ —— 納入のお願い ——」、または、年会費納入依頼通知をご覧の上、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

その他の収入としましては、『大学史研究』(紀要)の非会員への売上金、73,500 円がありました。

2009 年度の総収入額としましては、3,904,504 円、前年度繰越金を除いた実収入額は、754,319 円でした。

## 【 支出 】

第 32 回セミナー開催経費は、50,000 円でした。

印刷費は、14,330 円です。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費です。これまで、事務局員が大学等で負担しているケースも多く、少額に留まるように努めておりますが、今後はこうした負担がなるべくかからぬように対処していきたいと考えております。

通信費の支出は、62,505 円です。これは、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキや、その他宅配便等の経費です。

消耗品・諸雑費は、3,832 円です。これは、事務局運営にあたっての文房具・ラベル・用紙・送金手数料等の経費にあたります。

また、謝金として、29,000 円を支出いたしました。これは、「大学史研究通信」の発送等、一度に大量の作業がある際のアルバイト依頼に絡んだ経費です。

次年度繰越は、3,697,882 円、来年度繰越金を除く総支出は 206,622 円でした。繰越金を除く収支の差は、547,697 円の大幅な黒字となりました。ただし、今年度これだけの増収となったのは、紀要の発行がなかったためにこれに関わる諸費用：約 45 万円の出費の必要がなかったことによります。

「2009 年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計については、深野政之会員(佛教大学)に監査を依頼し、精細な監査の上、会計の適正処理をご承認いただきました。

御多忙のところ監査業務を賜りました深野会員には、この場を借りて心よりお礼申し上げますとともに、次年度も引き続きよろしくようお願い申し上げます。

## **\* 2010年度の予算案**

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。

例年と同様、2010年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告いたします。

### **【 収入案 】**

収入は、年会費と紀要売上金の2つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの650,000円を収入予定額として設定いたしました。繰り返して恐縮ではありますが、2010年度も会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

紀要売上金も、例年並みの収入を想定し50,000円としました。このような金額を収入予定に組み込めるのは、編集委員会の方々のご尽力により売り上げを伸ばしていただいていることが関わっております。この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、第32回セミナー開催費の戻し入れ額を50,000円と見積もっております。セミナー開催経費につきましては、後述の支出案をご参照下さい。

総収入額は4,450,882円、繰越金を除く総収入額は753,000円といたしました。

### **【 支出案 】**

支出案は、例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。

2010年度は、『大学史研究』（第24号）を発行する予定になっております。発行経費（制作・印刷・発送費の総計）は450,000円としました。ここ数年の実績を踏まえ、一回分の経費としましたが、紀要発行は研究会の活性化にとって最も重要な事業ですので、投稿論文の本数に応じ、その都度柔軟に対応させていただきたいと考えております。

なお、2010年度は名簿発行年にあたります。発行経費（制作・印刷・発送費の総計）は60,000円といたしました。

セミナー開催経費とは、セミナー開催の準備費として事前に開催校にお預けする費用です。通常ですと参加費で経費は賄えますので、収入欄にも記載しましたように、翌年度そのまま戻し入れていただくことが想定されます。

大学史研究会ホームページにつきましては、研究会の情報発信機能として、今後一層の充実と活用を図る予定です。この管理費として、30,000円を含めております。

編集委員会および事務局の会議費・交通費につきましては、過去の総会で承認された項目ですので、それぞれ50,000円を計上いたしました。研究会の円滑な運営を目指して、定期的に会合を開けるよう努めたいと思っております。

その他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。非会員への原稿依頼等に必要の謝金20,000円、予備費100,000円も含めました。

2010年度から次年度への繰越金は3,505,882円、繰越金をのぞく総支出予算案は945,000円を予定しております。



大学史研究会 2010年度 予算書  
 (自 2009年12月1日 至 2010年度第2回決算日)

収入		支出	
品目	金額	品目	金額
前年度繰越金	40,000,000	1. 会費(一般会員等)	1,200,000
会費(一般会員)	40,000,000	2. 印刷費・通信費	400,000
会費(大学院在学・日本学術振興会特別研究員)	300,000	3. 経費(印刷・雑費)	100,000
前年度繰越金	40,000,000	4. 印刷費(書籍)	100,000
会費(一般会員)	40,000,000	5. 印刷費(会報)	100,000
会費(大学院在学・日本学術振興会特別研究員)	300,000	6. 印刷費(論文)	100,000
計	80,000,000	7. 印刷費(その他)	100,000
		8. 印刷費(その他)	100,000
		9. 印刷費(その他)	100,000
		10. 印刷費(その他)	100,000
		11. 印刷費(その他)	100,000
		12. 印刷費(その他)	100,000
		13. 印刷費(その他)	100,000
		14. 印刷費(その他)	100,000
		15. 印刷費(その他)	100,000
		16. 印刷費(その他)	100,000
		17. 印刷費(その他)	100,000
		18. 印刷費(その他)	100,000
		19. 印刷費(その他)	100,000
		20. 印刷費(その他)	100,000
		21. 印刷費(その他)	100,000
		22. 印刷費(その他)	100,000
		23. 印刷費(その他)	100,000
		24. 印刷費(その他)	100,000
		25. 印刷費(その他)	100,000
		26. 印刷費(その他)	100,000
		27. 印刷費(その他)	100,000
		28. 印刷費(その他)	100,000
		29. 印刷費(その他)	100,000
		30. 印刷費(その他)	100,000
		31. 印刷費(その他)	100,000
		32. 印刷費(その他)	100,000
		33. 印刷費(その他)	100,000
		34. 印刷費(その他)	100,000
		35. 印刷費(その他)	100,000
		36. 印刷費(その他)	100,000
		37. 印刷費(その他)	100,000
		38. 印刷費(その他)	100,000
		39. 印刷費(その他)	100,000
		40. 印刷費(その他)	100,000
		41. 印刷費(その他)	100,000
		42. 印刷費(その他)	100,000
		43. 印刷費(その他)	100,000
		44. 印刷費(その他)	100,000
		45. 印刷費(その他)	100,000
		46. 印刷費(その他)	100,000
		47. 印刷費(その他)	100,000
		48. 印刷費(その他)	100,000
		49. 印刷費(その他)	100,000
		50. 印刷費(その他)	100,000
		51. 印刷費(その他)	100,000
		52. 印刷費(その他)	100,000
		53. 印刷費(その他)	100,000
		54. 印刷費(その他)	100,000
		55. 印刷費(その他)	100,000
		56. 印刷費(その他)	100,000
		57. 印刷費(その他)	100,000
		58. 印刷費(その他)	100,000
		59. 印刷費(その他)	100,000
		60. 印刷費(その他)	100,000
		61. 印刷費(その他)	100,000
		62. 印刷費(その他)	100,000
		63. 印刷費(その他)	100,000
		64. 印刷費(その他)	100,000
		65. 印刷費(その他)	100,000
		66. 印刷費(その他)	100,000
		67. 印刷費(その他)	100,000
		68. 印刷費(その他)	100,000
		69. 印刷費(その他)	100,000
		70. 印刷費(その他)	100,000
		71. 印刷費(その他)	100,000
		72. 印刷費(その他)	100,000
		73. 印刷費(その他)	100,000
		74. 印刷費(その他)	100,000
		75. 印刷費(その他)	100,000
		76. 印刷費(その他)	100,000
		77. 印刷費(その他)	100,000
		78. 印刷費(その他)	100,000
		79. 印刷費(その他)	100,000
		80. 印刷費(その他)	100,000
		81. 印刷費(その他)	100,000
		82. 印刷費(その他)	100,000
		83. 印刷費(その他)	100,000
		84. 印刷費(その他)	100,000
		85. 印刷費(その他)	100,000
		86. 印刷費(その他)	100,000
		87. 印刷費(その他)	100,000
		88. 印刷費(その他)	100,000
		89. 印刷費(その他)	100,000
		90. 印刷費(その他)	100,000
		91. 印刷費(その他)	100,000
		92. 印刷費(その他)	100,000
		93. 印刷費(その他)	100,000
		94. 印刷費(その他)	100,000
		95. 印刷費(その他)	100,000
		96. 印刷費(その他)	100,000
		97. 印刷費(その他)	100,000
		98. 印刷費(その他)	100,000
		99. 印刷費(その他)	100,000
		100. 印刷費(その他)	100,000
		計	80,000,000

収入総額(前年度繰越金を含む) 80,000,000円 支出総額(前年度繰越金を含む) 80,000,000円

上記のとおり、予算を執行し、(入会費)計(前年度) 円

2009年度までの年会費未納の方へ —— 納入のお願い ——

本通信に記載の会計報告のとおり、大学史研究会の収入は、会員各位からの年会費(一般会員：5,000円、大学院在学・日本学術振興会特別研究員：3,000円)に大きくよっております。

2009年度の全会員数に対する年会費納入率は61.7%であり、未納の会員も少なからぬ状況です。

そこで、2009年度の年会費納入依頼通知はすでに昨年度発送済みではありますが、2010年1月25日現在、過年度分の年会費が未納の方につきましては、年会費納入依頼通知と払込票を再送させていただくことにしました。研究会の円滑な運営と発展のために、ご理解ご協力をお願い申し上げます。詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。未納年度分の年会費の合計金額を明示しております。

また、年会費3ヶ年度分以上の滞納の会員各位につきましては、研究会への継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、『大学史研究』（紀要）等の発送を停止する規定になっております。該当する会員各位へのご連絡通知にはこの点も記載されておりますので、こちらもご留意願います。

なお、本依頼通知発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

—— 年会費納入払込先 ——

郵便振替口座： 大学史研究会      口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座      : 大学史研究会      三井住友銀行 池袋東口支店（店番 671）  
普通預金（口座番号 3456109）

（事務局会計担当： 沖塩有希子・浅沼薫奈）

**第33回大学史研究セミナーの開催について**

第33回大学史研究セミナーは、コンソーシアム京都のあるキャンパスプラザ京都で開催することになりました。深野政之会員（京都FD開発推進センター専門研究員）に会場の提供をお引き受けいただきました。京都駅前の便利な立地です。2010年10月から12月にかけての週末に開催する予定です。日程が確定し次第、ホームページおよび通信にてお知らせ致します。皆様、奮ってご参加下さい。

また、シンポジウムのテーマを募集しています。ご提案をお持ちの会員の方は以下のセミナー担当までご連絡下さい。

キャンパスプラザ京都

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る（JR京都駅より徒歩数分）

<事務局セミナー担当>

広島大学高等教育研究開発センター 福留東土

Fukudome@hiroshima-u.ac.jp

TEL&FAX：082-424-6231

（事務局セミナー担当 福留東土）



## 事務局からのお知らせ

### 「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけております。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本通信編集担当の井上までご一報いただければ幸いです。

## 原稿募集

『大学史研究通信』第62号は2010年4月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）、もしくは本通信編集担当の井上までお願いいたします。

## 住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

## 『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

## 編集後記

会員の皆様のご協力により、第32回研究セミナーも無事、盛況のうちに終えることができました。この場をかりて厚くお礼申し上げます。

大学史研究会がより一層充実した会となるよう務めて参りたいと思います。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(井上 美香子 記)

『大学史研究通信』第 61 号の編集は事務局・井上美香子が担当いたしました。

連絡先 〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1  
九州大学大学文書館 百年史編集室  
TEL : 092-642-7189 FAX: 092-642-3956  
E-mail: mikako-inoue@luck.ocn.ne.jp

『大学史研究通信』第 62 号は、2010 年 4 月 30 日発行予定です。

### 大学史研究会事務局

〒739 - 8512 広島県東広島市鏡山 1-2-2  
広島大学 高等教育研究開発センター 福留 東土研究室 大学史研究会  
TEL&FAX : 082-424-6231  
E-mail: fukudome@hiroshima-u.ac.jp  
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。

E-mail: [jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp](mailto:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)

### 大学史研究会事務局員 (五十音順)

浅沼 薫奈	(大東文化大学)	井上 美香子	(九州大学大学文書館百年史編集室)
岡田 大士	(中央大学)	沖塩 有希子	(青山学院大学非常勤)
田中 正弘	(島根大学)	福留 東土	(広島大学)